

## 4 英語について

英語について、生徒たちはどのようなイメージを持ち、どのように学ぼうとしているのであろうか。

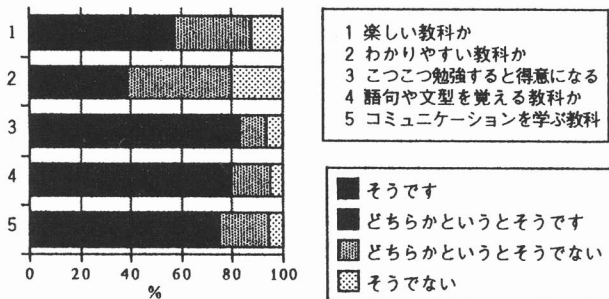
なお、ここでもスペースの関係で、グラフや表は一部しか載せていない。詳しくは、本センター発行の調査報告書をご覧ください。

### 1 英語学習に対する意識

#### (1) 英語の教科イメージ

英語は、「語句や文型を覚え」ながら、「コミュニケーション能力を高める」教科であり、「こつこつ学べばできるようになる」教科であると考えている生徒が多い。しかし、「楽しさ」「わかりやすさ」といった項目になると、次第にマイナスイメージが強くなり、特に学年が上がるにつれて増幅されている。

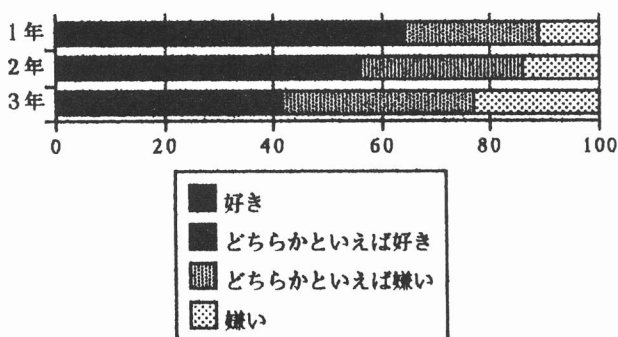
教科に対するイメージ



#### (2) 英語に対する好き嫌い

英語に対する好き嫌いは、次のとおりである。

英語に対する好き嫌い



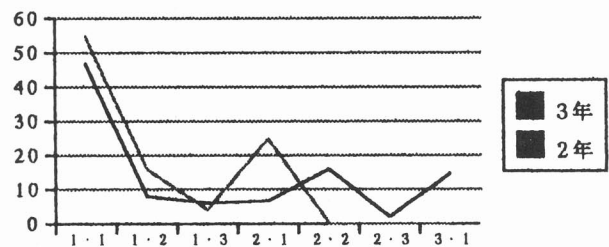
#### (3) 英語を、いつ好き(嫌い)になったか。

英語が好きになった時期は、中学校1年の1学期という答えが多く、全体の半数である。

一方、嫌いになった時期としては、中学校1年1、2学期が最も多いが、各学年各学期に満遍なく分布している。

学年進行とともに、好き・嫌いの両極化が進んでいることも、特徴の一つである。

英語を好きになった時期



#### (4) 好きに(嫌い)になった理由 (2つ選択)

英語を好きになった理由としては、「勉強が楽しい」「将来役に立つ」「内容がよく分かる」などが多い。

嫌いになった理由として、「内容が分からない」「良い成績がとれない」「授業が楽しくない」などが挙げられている。

成績別に見ると、上位の生徒は授業に知的なおもしろさを望み、下位の生徒は、より感覚的な楽しさを要求している。

英語を好きになった理由

